1. 目的

信用取引情報をグラフ化し、買い方売り方の需給状態を視覚化することにより、相場のエネルギ動向を観察します。

2. 方法

1) RSS関数

信用取引に関するRSS関数を入力し、信用買残株、信用売残株などの情報を取得する。

たとえば、例題としてここでは、

《証券取引所情報》	《日本証券融資情報》
①逆日歩	⑦新規貸株
②信用売残	⑦新規貸株
③信用売残前週比	⑨返済貸株
④信用買残	⑩返済融資
⑤信用買残前週比	⑪残高貸株
⑥信用倍率	⑫残高融資
	⑬回転日数
	⑭貸借倍率

を入力している。

2) 発行株や浮動株などの情報

図1に示すようにRSS関数では取得できない情報を、四季報などを利用して入力する。

発行株数や浮動株率は浮動株数を計算して、売買率や信用取引率の計算に用いる。

3) グラフ表示

グラフは以下の6種類ある。

①信用倍率グラフ

ここで表示している信用倍率は、1近傍の一般の情報を詳しく見るため信用倍率の定義と異なる。

《一般の信用倍率の計算式》

信用倍率 ＝ 信用買残 ÷ 信用売残

（この式は1以下の動きがよくわからない。）

《本信用倍率の計算式》

信用倍率 ＝ 信用買残 ÷ （信用買残 ＋信用売残） - 0.5

（この式は0近傍の動きがよりよく観察できる。）

《売買率》

売買率は浮動株数を考慮した出来高比率です。売買の活性度を見ます。

売買率 ＝ 出来高 ÷ （発行株数×浮動株率） ×100

②信用売買残グラフ（証券取引所データ）

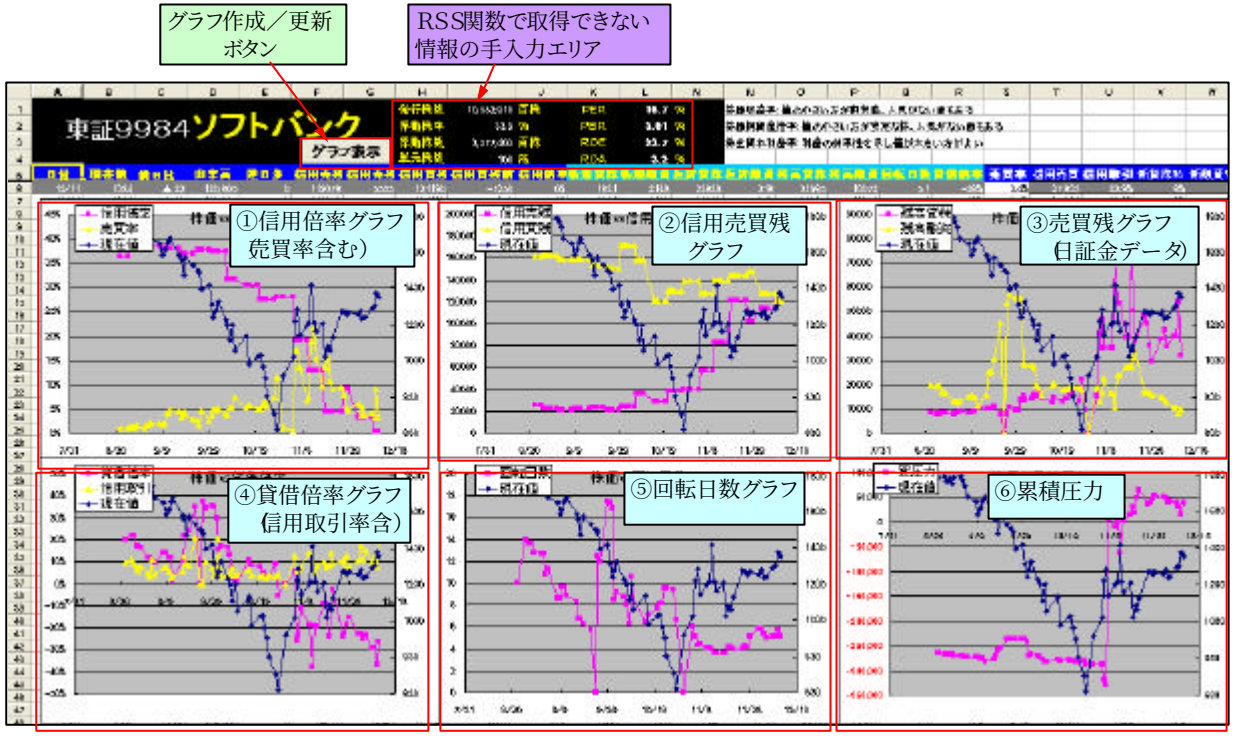
1週間の信用売買動向結果である信用売残と信用買残の生データをグラフ表示する。

③売買残グラフ（日証金データ）

毎日の信用売買動向結果である信用売残と信用買残の生データをグラフ表示する。

④貸借倍率（日証金データ）

図1 信用取引情報チャートの画面



毎日配信される日証金の残高貸株と残高融資の比が一般的であるが、ここでは
信用倍率と同じ理由により、下記の計算式を用いて表現する。

《貸借倍率の計算式》
貸借倍率 ＝ 残高融資 ÷ （残高貸株＋残高融資） - 0.5

⑤回転日数グラフ
日証金の信用取引データを元にした回転日数の生データをグラフ表示。

⑥累積圧力グラフ
日証金データの新規貸株、新規融資、返済貸し株および返済融資データを使って
つぎのような売買圧力を定義します。

買圧力 ＝ （新規融資 ＋ 返済貸株）
売圧力 ＝ （新規貸株 ＋ 返済融資）
累積圧力 ＝ 買圧力 - 売圧力

注） 証券取引所のデータは毎週火曜日20時頃、
日本証券金融のデータは毎日20時頃までに更新される。

3. 操作方法
1）本Myツールの起動
毎日20時以降に本Myツールを起動し、データを更新する。
本Myツールを起動する過程で、マクロを有効にすること、リンクをすることの返答が必要です。

2）グラフの更新
図1の「グラフ表示」ボタンを押すとグラフが作成更新される。
シート毎に銘柄の信用データが記録されるので、上記の操作を繰返す。

3）データ保存
本Myツールの終了時に「データの更新」と「ファイルの保存」について聞いてくるので
「はい」をクリックします。

4）評価結果
①～⑥のグラフを見ながらそれぞれの銘柄の信用取引事情を把握する。
本ツールで定義した売買累積圧力について説明します。
一般的に買圧力（新規融資＋返済貸株）が増加すれば株価が上昇する機会が多く、
減少すれば下降するときが多くなります。
しかし、正反対の動きをする銘柄もあります。

4. 備考と注意事項
ここで定義した信用倍率と貸借倍率が0を切ったからと言って、必ず上昇に転ずるとは
限りません。それぞれの銘柄（事情）によって異なります。

株の売買には十分に注意し、自己判断、自己責任でお願いします。

《省力化》
Excelオープン／クローズのスピードアップ、メモリの節約には
本取扱説明書のシートを削除してください。
（オリジナルのファイル（CD－ROM）のExcelファイルの内容を変更してはいけません。）